

## 日本的な「和」を重視したスヌーズレン機器の開発

### 研究概要

発達障害児の精神鎮静のためにスヌーズレンを導入している施設が多くみられます。しかし、日本でのメーカーが存在しないため、その機材の多くは輸入ものです。本研究では和のテイストを持つスヌーズレン機器の開発とその評価手法について研究を進めております。



ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科

**嶺 也守寛** 准教授 Yasuhiro Mine

研究キーワード: スヌーズレン 精神鎮静 発達障害 認知症 高齢者 障害者

URL: <http://researchmap.jp/g0000213043>

### 研究シーズの内容

スヌーズレンは、1970年代にオランダで Jan Hulsegge(ヤン・フルゼツヘ) and Ad Verheul(アド・フェアフル)が開発し実践した多重感覚環境を示します。スヌーズレン(Snoezelen)の語源は、「クンクン匂いを嗅ぐ」と言う意味のスヌッフエレン(Snuffelen)と「ウトウトする」と言う意味のドウズレン(Doezelen)が合わさった造語になります。当初は、重度知的障害者の日常生活の質を高めるレクリエーション活動として取り組まれました。スヌーズレンの定義としては、「特別にデザインされた環境の中で、コントロールされた多重感覚の刺激を通して幸福感を産出するものである。」とされています。

本研究では、川越商工会議所の異業種交流会・KOEDO 会様と本学の産官学連携推進センターご協力のもと、共同研究テーマとして採択されました。研究内容としては、日本でスヌーズレンが始められたのは1980年代後半で、その後、主に知的障害や発達障害を持つ児童のために障害者施設内でスヌーズレンルームが導入されています。このスヌーズレンで使用される機器は、オランダやイギリスなどのメーカーが制作したものを輸入しているのが現状で、「機材が高額である。」「故障したときなどメンテナンスに時間や費用がかかる。」などの問題点が指摘されています。我々はこの問題点を解決するために、KOEDO 会様の様々な業種の技術的要素を用いて、日本独自の文化に合ったスヌーズレンの機器の開発を進めております。現在、スヌーズレンに使用される代表的な機器である「バブルチューブ」を中心に、新たなデザインの提案と制作を進めていくことにしております。



図1 スヌーズレンルームの事例 (国立特別支援教育総合研究所)

### 活用例・産業界へのアピールポイント

現在、スヌーズレンルームを導入しているのは、知的障害や発達障害を対象とした施設が主ですが、今後は、認知症を持つ高齢者施設や大人の精神的疲労回復など我々の身近なところにスヌーズレンの考え方が入った「特別な部屋」の導入が進められると考えております。

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)